

人間学会 ニュースレター

上智人間学会
2022年4月8日発行

1. 第50回大会のご案内
2. 研究発表・紀要原稿の募集について
3. 第49回大会報告記
4. 役員会・事務局からのお知らせ

1. 第50回大会のご案内

春風の候、皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

次回大会につきまして、下記の要領で開催を予定しておりますので、ご案内申し上げます。

期日：2022年9月9日（金）・10日（土）

場所：上智大学 四谷キャンパス（会場は調整中）

テーマ：隣人性と人間教育

2020年、教皇フランシスコは回勅『兄弟の皆さん』を發布し、兄弟愛と社会的友愛に基づく人類の連帯を呼びかけました。回勅の背景にあるのは、現代社会のグローバル化がもたらした人間性の破壊です。利益をめぐる争いに投げ込まれた結果、共通善に無感覚になり、兄弟的な関わりを見失った人間の現状を憂慮する教皇は、アッシジの聖フランシスコが体現するこれら二つの理念が、人類の共生と世界の平和を願う人類すべてに開かれたものであることを語ります。

教皇の呼びかけは、「隣人性」（neighborliness）、すなわち「他者のために、他者とともに」という生き方を人間教育の中心テーマと考える本学会員にとって、今後の教育の方向性を見定める上で、特別に重要な指針です。

第50回という節目の大会にあたり、隣人性を生きるための教育のあり方について意見を交わし、会員同士の兄弟的な関わりをいっそう深める機会にいたしましょう。

2. 研究発表・紀要原稿の募集について

☆第50回大会研究発表の募集

上記の大会テーマを共通課題として、研究発表を募集いたします。(質疑をのぞき 25 分程度)
なお、研究発表は他に発表したことのないもので、人間学に関係した内容に限ります。

【発表応募締切】 2022年5月27日(金) 必着

所定の申込用紙に記入の上、事務局へお送り下さい。

【発表応募に対する回答通知】

2022年6月中旬までに、応募に対する回答通知を本人宛に送付します。

【発表概要の事前提出期限】 2022年8月31日(水)

A4版で3~5枚、原則としてWordファイルやPDFファイルでの提出をお願いいたします。

☆『人間学紀要』第52号論文の募集

2022年度紀要(2023年3月発行予定)の原稿を、下記の規定に基づき募集します。論文は査読の上、掲載の可否を通知いたします。掲載可の場合でも、内容により加筆修正や掲載区分の変更などをお願いする場合があります点をご了承下さい。

【論文応募締切】 2022年10月7日(金) 必着

所定の申込用紙(7月発行ニュースレターに同封予定)に記入の上、原稿およびデータと合わせて事務局へお送り下さい。

【応募に対する回答通知】

2022年11月末までに、応募に対する回答通知を文書で本人宛に送付します。

【投稿規定】

- ・応募資格を有する者は、本学会の会員のみとする。
- ・他に発表したことのないもので、人間学と関わりのある新原稿であることとする。
- ・論文は16,000字以内、研究ノートは同8000字以内(いずれも脚注を含む)相当とする。
- ・投稿された原稿は、複数名による査読の上、編集委員会にて掲載の可否を決定する。
なお審査の過程で内容の修正や掲載区分の変更を求める場合がある。その場合は編集委員会が再び採否を判断する。
- ・応募論文のほか、編集委員会からの依頼原稿や報告記などが掲載される場合がある。
- ・2号連続しての投稿は原則として認めない。ただし、上智大学基盤教育センターキリスト教人間学領域の所属教員については、その限りではない。
- ・原稿は所定の期日までに「上智人間学会事務局」宛に3部郵送すること。
- ・原稿は原則としてワープロ作成(A4版・40字×30行)とし、原稿提出の際には使用機種を明記し、データファイル(USBメモリ等)を同封すること。
- ・図表や写真を使用する場合は、そのまま印刷可能な状態のものを用意すること。
- ・原稿には日本語表記に加えて、英文のタイトルおよび執筆者氏名を標記すること。
- ・原稿冒頭に掲載するため、400字以内の要約を添付すること。

3. 第49回大会報告記

去る2021年9月4日(土)、第49回大会がZoomミーティングによるオンライン形式にて開催されました。大会テーマは、新型コロナウイルス感染症第2波の影響で中止となった2020年度(48回)大会で予定されていたテーマ「〈かかわり〉の人間学再考」を引き続き取り上げ、研究発表とシンポジウムを同日の午前・午後に集約しての開催となりました。

午前の部では、菊地 了氏による研究発表「隣人愛の現象学-D. v. ヒルデブランドの『愛の本質』より」が行われ、参加者との活発な質疑応答が交わされました。

午後の部では「〈かかわり〉の人間学再考～人間学のこれまで・これから」と題して、シンポジウムが開催されました。昨年度は大会が中止となったため、瀬本正之先生(上智大学)にお願いしていた基調講演の内容は『人間学紀要』50号に寄稿していただきました。そうした事情も考慮し、今大会では基調講演は行わず、瀬本先生をはじめ、片山はるひ先生(上智大学)、高山貞美先生(白百合女子大学)、吉川まみ先生(上智大学)の4名の提題者により、これまでの上智大学における「人間学教育」を振り返りつつ、その未来を展望し、語り合う場を企画いたしました。その話題は、クラス必修「人間学」時代の思い出から、「かかわりの人間学」の構想を支える基本的な理念や人間観、また他のカトリック大学における人間学教育の位置づけとの比較、そして現在の上智における「キリスト教人間学」の位置づけなど、多岐に渡りました。そのなかで、筆者の印象に残った話題のひとつが、かつての人間学研究室の「エンゲル係数の高さ」を引き合いに出して片山先生が強調された「共同研究」や「人格的交流の中での学び」の大切さについてのご指摘でした。オンライン授業が続いたこの2年のあいだに、他者と親しく顔をあわせ、時を共有することの重みを、私たちは身にしみて経験しています。大学を取り巻く環境は大きく変化し、クラス必修時代のような、時間をかけて学生とじっくり向き合うことのできる教育環境は、日々失われていくようです。しかしそういう時代にあっても、学生との出会いの中で私たち自身が学びつつ成長に寄り添い、学びの場をゆたかにしていくことなしに、真の「全人的教育」はありえないことを、あらためて深く感じ、胸に刻んだひとときでした。

シンポジウム終了後は、会員による総会が引き続きオンラインで行われ、昨年行うことができなかった会長選挙を行い、高山貞美先生が再任されました。初のオンライン開催の試みでしたが、多くの会員にご参加いただき、画面越しではありますが、あたたかく濃密な時を共有することができたように感じました。皆様、本当に有難うございました。(記：崎川)

4. 役員会・事務局からのお知らせ

★コロナ禍の長引くなか、学会員の皆様それぞれに、大変な状況を過ごしてこられたことと存じます。ウクライナの悲劇的な状況、また東北での地震被害など、心の痛むニュースの多い昨今ですが、こうした複雑な現実を前にして、「人間」を問い、そのあるべき姿を追求する本学会の営みは、一層その重要性を増しているように思われます。第50回大会を迎える本学会が、半世紀の豊かな歩みを受け継ぎ、いのちと平和を守り育む「かかわり」の礎として、歩み続けることができればと願っております。

★2022年度の大会は、上智大学を会場とし、対面での開催を予定しております。無事に開催できることを願っておりますが、状況によっては制約が生じる可能性もございます。詳細につきましては、7月発行のニュースレターでお知らせする予定です。

★このたび、上智大学における教学組織の変更に伴い、これまで学会事務局の置かれていた神学部内の「キリスト教人間学」事務室は閉室となり、「キリスト教人間学」は新たに設置された「基盤教育センター」に移管されました。これにともない、学会事務局の体制にも変更がございます。

2022年4月1日以降の、学会事務局の連絡先は以下の通りになります。

東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 基盤教育センター気付 上智人間学会事務局

メールアドレス：ningengakkai@gmail.com

電話、FAX等によるお問い合わせ、ご連絡はお受けできなくなります。誠に恐縮ですが、メールもしくは郵便にてお願いいたします。）

★学会所在地の変更については、会則の変更が必要となりますが、これにつきましては9月の大会時の総会にて、変更の審議と承認をお願いする次第です。

上智人間学会ホームページアドレス

<http://ningen-gakkai.org>

上智人間学会 役員会／事務局

会 長 高山 貞美
幹 事 武田なほみ 崎川 修
会 計 丹木 博一 稲葉 景
紀要編集 久保 文彦 吉川 まみ

連絡先（2022年4月より）

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学基盤教育センター気付 人間学会事務局

E-mail:ningengakkai@gmail.com